

ἐκλέγομαι

エクレゴマイ

知っておきたいキリスト教のことば (27)

選ぶ えらび

「選ぶ」という語は日常の中で、辛口と甘口とどちらがいいかチョイスするだとか、PTAの役員に選ばれるとかいった具合に用いられます。しかし聖書の中で「選ぶ」という語は、特別な意味をもって用いられることが多くあります。

旧約聖書を見ていくと、イスラエル民族が「神(ヤハウェ)に選ばれた民」として描かれていることに気づかされます。その選びが、神さまによって計画されたものであると考えられているのです。

イスラエルという国は、とても小さな国でした。しかしそれにもかかわらず、神ヤハウェは一方的にイスラエルを自分の民としたのです。

そのあたりの神学的な意味については、また別の機会に触れますが、イエス様が地上に来られ、その救いのみ手は全人類へと伸ばされています。

イエス様はガリラヤ湖の岸辺で弟子たちに声を掛けられました。また、当時人々から大変嫌われていた徴税人も弟子として呼び寄せます。さらに病気の人や弱くされた人々、貧しい人々の元に行き、起き上がらせ、「わたしに従いなさい」と導かれました。

さらにわたしたち一人一人の心の扉もノックして、招いておられるのです。それが「選ぶ」です。

わたしたちは自分の力で神さまを知り、信仰に入ったものではありません。神さまが主体的にわたしたちを召し出してくださったから、わたしたちは神さまの存在に気づき、神さまに従って歩んで行けるのです。

わたしたちはすべて、神さまによって選ばれています。「こんなわたしでも」と、どうぞ、その身を神さまに委ねてください。

次回は「エルサレム」です。お楽しみに。



「ペトロとアンデレの召命」

G・ドメニコ(1612～1675年)

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。

(ヨハネによる福音書 15章16節)

